

1. スタッフ構成(2025年3月時点)

○名和 由一郎(がん治療センター長、改善推進本部長、輸血部長)

1992年島根医科大学医学部卒

専門分野:血液全般、造血幹細胞移植、急性白血病、多発性骨髄腫

資格:日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医、日本血液学会血液専門医・指導医、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医・指導医、日本造血・免疫細胞療法学会造血細胞移植認定医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本輸血・細胞治療学会認定医・細胞治療認定管理師、ICD制度協議会インフェクションコントロールドクター、厚生労働省臨床研修指導医

○中瀬 浩一(主任部長、がん治療センター副センター長、働き方改革推進室長補佐、改善推進室長補佐)

1996年岡山大学医学部卒

専門分野:血液全般、造血幹細胞移植、成人T細胞性白血病、感染症、栄養管理

資格:日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医、日本血液学会血液専門医・指導医、日本造血・免疫細胞療法学会造血細胞移植認定医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本化学療法学会抗菌化学療法認定医、ICD制度協議会インフェクションコントロールドクター、厚生労働省臨床研修指導医

○佐伯 恭昌(部長)

2008年岡山大学医学部卒

専門分野:血液全般

資格:日本内科学会認定内科医・総合内科専門医、日本血液学会血液専門医、厚生労働省臨床研修指導医

○橋田 里妙(部長)

2010年高知大学医学部卒

専門分野:血液全般、造血幹細胞移植

資格:日本内科学会認定内科医・総合内科専門医、日本血液学会血液専門医、日本造血・免疫細胞療法学会造血細胞移植認定医、厚生労働省臨床研修指導医

○板楠 今日子(医長)

2009年筑波大学医学専門学群卒

専門分野:血液全般

資格:日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医、日本血液学会血液専門医、日本造血・免疫細胞療法学会造血細胞移植認定医、日本輸血・細胞治療学会認定医、厚生労働省臨床研修指導医

○上田 怜(医長)

2013年愛媛大学医学部卒

専門分野:血液全般、感染症

資格:日本内科学会認定内科医、日本血液学会血液専門医、ICD制度協議会インフェクションコントロールドクター、厚生労働省臨床研修指導医

○後藤 有基(医長)

2015年金沢大学医学部卒

専門分野:血液全般、栄養管理

資格:日本内科学会認定内科医、日本血液学会血液専門医、厚生労働省臨床研修指導医

○諫見 俊宏(専攻医)

2020年岡山大学医学部卒

専門分野:血液全般

○土居 優希(内科専門研修プログラム専攻医)

2022年愛媛大学医学部卒

2. 実績

当科では、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、骨髄異形成症候群、白血病などの血液疾患を対象として、安全で患者さんの満足度の高い化学療法を行っています。初回化学療法は基本的に全例入院で行いますが、以後は化学療法の日程、副作用や安全性などを考慮して、外来化学療法に移行するか、入院の化学療法を繰り返すかを決定しています。昨今の病院全体での化学療法の件数増加、それによる化学療法室の慢性的なベッド不足もあり、外来化学療法加算の算定ができない皮下注射の化学療法については、2020年2月から中央処置室で当科医師が施行しています。

県内の血液疾患の患者さんは、なるべく地元で治療ができるように、県立南宇和病院に2か月に1回、県立今治病院に月1回診療支援に伺っています。治療の必要な患者さんは迅速に中央病院で治療を行い、状態が落ち着いて南宇和や今治でも治療可能となれば、県立南宇和病院・県立今治病院で診療を行っていく体制を構築し、東予・南予地区で患者さんの満足できる質の高い血液診療を提供できるよう心がけています。

■ 疾患別入院患者数

疾患名	2022	2023	2024
急性白血病	123	145	148
うち ALL	19	52	42
骨髄異形成症候群	105	56	51
悪性リンパ腫	266	311	330
多発性骨髄腫	68	65	52
慢性骨髄性白血病	2	14	15
慢性リンパ性白血病	6	0	2
再生不良性貧血	4	9	8
その他	129	73	90
合計	703	673	696

■ 死亡症例数

	2022	2023	2024
症例数	18	30	25
うち剖検数	0	1	2

■ 初診患者数

疾患名	2022	2023	2024
急性白血病	28	18	23
うち ALL	3	5	4
骨髄異形成症候群	44	18	21
悪性リンパ腫	86	103	104
多発性骨髄腫	20	17	8
慢性骨髄性白血病	10	15	9
慢性リンパ性白血病	4	3	1
再生不良性貧血	4	5	9
特発性血小板減少性紫斑病	17	21	22
その他	180	121	110
合計	393	321	307

■ 検査・治療件数

検査・治療名	2022	2023	2024
骨髄穿刺	480	389	431
骨髄生検	197	191	238
血液疾患による輸血療法			
赤血球製剤	3,470	3,826	3,530
新鮮凍結血漿	476	228	466
濃厚血小板	15,050	12,870	11,340
自己血	6	13	13
小計	19,002	16,937	15,349
血縁者間骨髄移植	1	3	0
非血縁者間骨髄移植	1	0	1
血縁末梢血細胞移植	5	1	6
非血縁末梢血細胞移植	0	0	0
自家末梢血幹細胞移植	7	10	4
臍帯血移植	9	7	7
うちハプロ移植	5	2	4
移植後外来(件数)	59	68	68
外来化学療法			
外来化学療法(点滴)	976	843	849
外来化学療法(皮下注)	1,386	1,664	1,392
小計	2,362	2,507	2,241
セカンドオピニオン(紹介数)	1	3	3
骨髄移植ドナー	2	7	4
うち非血縁	1	4	4
末梢血幹細胞移植ドナー	4	5	6
うち非血縁	0	3	0

3. 2025年度目標

昨年度に引き続き、職員が安心して働くことができ、離職者が出ず、職員満足度の高い職場を目指します。その結果、患者さんに良質な医療が提供できて、患者さんの満足度も上がると考えています。具体的な目標は以下のとおりです。

(1) 職員の心理的安全性重視と働き方改革

当科のチーム医療においては、職員の心理的安全性を重視します。つまりパワーハラスメントの撲滅です。各自が思ったことを気兼ねなく発言できて、チーム内の意思疎通が十分に行われることで、重複する業務を減らし、職員が安心・納得して働ける職場を作っていきます。

(2) 患者さんのQOL(生活の質)向上

当科には造血細胞移植を通じて構築した良好なチーム医療の体制があります。チーム医療を生かして、安心・安全な医療を提供し、患者さんのQOLの維持・向上をはかることで、「当院で治療して良かった」と患者さんに言っていただける医療を提供します。

(3) EBM重視とEBM創出

医療の提供にあたっては、医師のみならず、チームの全員がエビデンス(提供する医療の根拠)を重視して、患者さんおよび医療スタッフが納得できる医療を目指します。また、EBM創出のため臨床研究を推奨し、日常の業務の中で気が付いた疑問が解決できるような研究に取り組み、学会発表や論文発表を通じて成果を発信していきます。

4. 学術関係

(1) 学会発表および講演

- 齋藤舞、後藤有基、諫見俊宏、肥山隆一郎、上田怜、橋田里紗、板橋今日子、佐伯恭昌、中瀬浩一、名和由一郎。管理栄養士による詳細な摂食状況確認から診断に至った壊血病。第63回日本血液学会中国四国地方会。岡山(2024.3.16)
- 上田弥生(岡山大学病院)、藤原英晃(岡山大学病院)、久保田紗矢(岡山大学病院)、林野健太(岡山大学病院)、藤原加奈子(岡山大学病院)、橋田里紗、福見拓也(岡山大学病院)、池内一廣(岡山大学病院)、松村彰文(岡山大学病院)、植田裕子(岡山大学病院)、清家圭介(岡山大学病院)、浅田騰(岡山大学病院)、藤井敬子(岡山大学病院)、遠西大輔(岡山大学病院)、藤井伸治(岡山大学病院)、松岡賢市(岡山大学病院)、前田嘉信(岡山大学病院)。ルキソリチニブの投与と下で同種造血幹細胞移植を実施した2例。第63回日本血液学会中国四国地方会。岡山(2024.3.16)
- 林野健太(岡山大学病院)、西森久和(岡山大学病院)、上田弥生(岡山大学病院)、久保田紗矢(岡山大学病院)、藤原加奈子(岡山大学病院)、橋田理沙、清家圭介(岡山大学病院)、藤原英晃(岡山大学病院)、浅田騰(岡山大学病院)、遠西大輔(岡山大学病院)、藤井敬子(岡山大学病院)、藤井伸治(岡山大学病院)、松岡賢市(岡山大学病院)、前田嘉信(岡山大学病院)。再発難治大細胞型B細胞リンパ腫に対する同種造血幹細胞移植とCAR-T療法の比較。第63回日本血液学会中国四国地方会。岡山(2024.3.16)
- 久保田紗矢(岡山大学病院)、藤原英晃(岡山大学病院)、上田弥生(岡山大学病院)、林野健太(岡山大学病院)、藤原加奈子(岡山大学病院)、橋田里紗、福見拓也(岡山大学病院)、池内一廣(岡山大学病院)、松村彰文(岡山大学病院)、清家圭介(岡山大学病院)、浅田騰(岡山大学病院)、藤井敬子(岡山大学病院)、遠西大輔(岡山大学病院)、藤井伸治(岡山大学病院)、松岡賢市(岡山大学病院)、前田嘉信(岡山大学病院)。CAR-T療法中に重篤なICANSを生じた3例。第63回日本血液学会中国四国地方会。岡山(2024.3.16)
- 橋田里紗、藤井文彰(北海道大学病院)、千丈創(北海道大学病院)、千葉雅尊(北海道大学病院)、長谷川祐太(北海道大学病院)、大東寛幸(北海道大学病院)、安本篤史(北海道大学病院)、後藤秀樹(北海道大学病院)、小野澤真弘(北海道大学病院)、表原里実(北海道大学病院)、西田睦(北海道大学病院)、橋本大吾(北海道大学病院)、豊嶋崇徳(北海道大学病院)。HokUS-10による早期診断と治療介入で救命し得た、HLA半合致移植後の重症肝臓閉塞症候群(SOS)の一例。第46回日本造血・免疫細胞療法学会総会。東京(2024.3.21-23)
- Yuki Mori, Koichi Nakase, Toshimi Noma, Tomoya Katsuta, Ryuichiro Hiyama, Yuki Goto, Ryo Ueda, Risa Hashida, Kyoko Itakusu, Kyosuke Saeki, Masakazu Mori, Yuichiro Nawa. ACCURATE DIETARY EVALUATION AND ADEQUATE NUTRITIONAL THERAPY ARE INDISPENSABLE FOR BETTER OUTCOMES OF ALLO-HSCT. The 50th Annual Meeting of the European Society for Blood and Marrow Transplantation. Glasgow, UK (2024.4.14-17)
- 直井友亮(岡山大学病院)、千々松良太(岡山大学病院)、浦田知宏(岡山大学病院)、角南一貴(岡山医療センター)今井利(高知医療センター)、名和由一郎、平松靖史(姫路赤十字病院)、山本和彦(岡山市立市民病院)、藤井総一郎(岡山赤十字病院)、吉田功(四国がんセンター)、矢野朋文(岡山ろうさい病院)、高田尚良(新潟大学)、佐藤康晴(岡山大学病院)、前田嘉信(岡山大学病院)、遠西大輔(岡山大学病院)。ABC-DLBCLにおけるCD79B発現低下の臨床的・生物学的意義の解明と検証。第64回日本リンパ網内系学会学術集会・総会。東京(2024.6.27-29)
- 高山理彩、渡部真志、本間義人、住田智志、佐伯恭昌、吉田暉、大坪治喜、白岡朗、京樂格、岡本憲省。免疫不全を背景にインフルエンザ関連肺炎を発症後播種性ムーコル症による致死性脳合併症を呈した1剖検例。日本内科学会第131回四国地方会。松山(2024.12.15)
- 藤谷岳明、佐伯恭昌、土居優希、後藤有基、上田怜、板橋今日子、橋田理紗、中瀬浩一、名和由一郎。初発DLBCLにITPを合併し、Pola-R-CHP療法および大量免疫グロブリン療法が奏功した1例。日本内科学会第131回四国地方会。松山(2024.12.15)

(2) 論文・著書

- Kensuke Usuki(NTT 東日本関東病院)、Shigeki Ohtake(金沢大学)、Sumihisa Honda(長崎大学大学院医薬学総合研究科)、Mitsuhiko Matsuda(PL病院)、Atsushi Wakita(名古屋市立大学医学部附属東部医療センター)、Yuichiro Nawa, Ken Takase(九州医療センター)、Akio Maeda(兵庫県立がんセンター)、Nobuo Sezaki(中国中央病院)、Hisayuki Yokoyama(仙台医療センター)、Satoru Takada(済生会前橋病院)、Daiki Hirano(名古屋医療センター)、Tatsuki Tomikawa(埼玉医科大学総合医療センター)、Masahiko Sumi(長野赤十字病院)、Shingo Yano(東京慈恵会

- 医科大学)、Hiroshi Handa(群馬大学)、Shuichi Ota(札幌北楡病院)、Hiroyuki Fujita(済生会横浜市南部病院)、Katsumichi Fujimaki(藤沢市民病院)、Atsuko Mugitani(府中病院)、Kensuke Kojima(高知大学医学部附属病院)、Tomohiro Kajiguchi(公立陶生病院)、Ko Fujimoto(近畿大学)、Norio Asou(埼玉医科大学国際医療センター)、Noriko Usui(東京慈恵会医科大学附属病院)、Yuichi Ishikawa(名古屋大学)、Akira Katsumi(国立長寿医療研究センター)、Itaru Matsumura(近畿大学)、Hitoshi Kiyoi(名古屋大学)、Yasushi Miyazaki(原爆後障害医療研究所)。Real-world data of AML in Japan: results of JALSG clinical observational study-11(JALSG-CS-11). *Int J Hematol* 119(1). 24-38 (2024.1)
2. 武清孝弘(今村総合病院)、市川雄大(虎の門病院)、木口大輔、中村和司(名古屋第一病院)、田仲勝一(香川大学附属病院)、青木卓也、名和由一郎。造血幹細胞移植における運動療法の意義と実際。日本造血・免疫細胞療法学会雑誌 13(1). 21-32 (2024.1)
3. Naoki Kurita(筑波大学附属病院)、Nobuhiko Imahashi(名古屋医療センター)、Shigeru Chiba(筑波大学附属病院)、Masatsugu Tanaka(神奈川県立がんセンター)、Hikaru Kobayashi(名古屋赤十字病院)、Naoyuki Uchida(虎の門病院)、Takuro Kuriyama(浜の町病院)、Naoyuki Anzai(高槻赤十字病院)、Yuichiro Nawa、Nobuaki Nakano(今村総合病院)、Takahide Ara(北海道大学病院)、Makoto Onizuka(東海大学)、Yuna Katsuoka(仙台医療センター)、Satoshi Koi(都立駒込病院)、Takafumi Kimura(近畿ブロッグ血液センター)、Tatsuo Ichinohe(広島大学原爆放射線医科学研究所)、Yoshiko Atsuta(日本造血細胞移植データセンター)、Junya Kanda(京都大学)。Comparison of fludarabine-based conditioning regimens in adult cord blood transplantation for myeloid malignancy: A retrospective, registry-based study. *Am J Hematol* 99(2). 236-244 (2024.2)
4. Kensuke Usuki(NTT 東日本関東病院)、Shigeki Ohtake(金沢大学)、Sumihisa Honda(長崎大学大学院医薬学総合研究科)、Mitsuhiro Matsuda(PL 病院)、Atsushi Wakita(名古屋市立大学医学部附属東部医療センター)、Yuichiro Nawa、Ken Takase(九州医療センター)、Akio Maeda(兵庫県立がんセンター)、Nobuo Sezaki(中国中央病院)、Hisayuki Yokoyama(仙台医療センター)、Satoru Takada(済生会前橋病院)、Daiki Hirano(名古屋医療センター)、Tatsuki Tomikawa(埼玉医科大学総合医療センター)、Masahiko Sumi(長野赤十字病院)、Shingo Yano(東京慈恵会医科大学)、Hiroshi Handa(群馬大学)、Shuichi Ota(札幌北楡病院)、Hiroyuki Fujita(済生会横浜市南部病院)、Katsumichi Fujimaki(藤沢市民病院)、Atsuko Mugitani(府中病院)、Kensuke Kojima(高知大学医学部附属病院)、Tomohiro Kajiguchi(公立陶生病院)、Ko Fujimoto(近畿大学)、Norio Asou(埼玉医科大学国際医療センター)、Noriko Usui(東京慈恵会医科大学附属病院)、Yuichi Ishikawa(名古屋大学)、Akira Katsumi(国立長寿医療研究センター)、Itaru Matsumura(近畿大学)、Yasushi Miyazaki(原爆後障害医療研究所)、Hitoshi Kiyoi(名古屋大学)。Real-world data of MDS and CMML in Japan: results of JALSG clinical observational study-11 (JALSG-CS-11). *Int J Hematol* 119(2). 130-145 (2024.2)
5. Yoshimitsu Shimomura(神戸市立医療センター中央市民病院)、Sho Komukai(大阪大学医学部・医学系研究科)、Tetsuhisa Kitamura(大阪大学医学部・医学系研究科)、Takayoshi Tachibana(神奈川県立がんセンター)、Shuhei Kurosawa(横浜市立市民病院)、Hidehiro Itonaga(長崎大学病院)、Shokichi Tsukamoto(千葉大学医学部附属病院)、Noriko Doki(東京都立駒込病院)、Yuta Katayama(広島赤十字・原爆病院)、Ayumu Ito(国立がん研究センター中央病院)、Masashi Sawa(安城更生病院)、Yasunori Ueda(倉敷中央病院)、Hirohisa Nakamae(大阪効率大学・大学院医学研究科)、Yuichiro Nawa、Masatsugu Tanaka(神奈川県立がんセンター)、Yasuyuki Arai(京都大学大学院医学研究科)、Shuichi Ota(札幌北楡病院)、Keisuke Kataoka(慶應義塾大学医学部)、Tetsuya Nishida(愛知医療センター名古屋第一病院)、Junya Kanda(京都大学大学院医学研究科・医学部)、Takahiro Fukuda(国立がん研究センター中央病院)、Yoshiko Atsuta(日本造血細胞移植データセンター)、Ken Ishiyama(国立国際医療センター)。The prognosis and risk factors for patients with complex karyotype myelodysplastic syndrome undergoing allogeneic haematopoietic stem cell transplantation. *Br J Haematol* 204(2). 612-622 (2024.2)
6. Shohei Mizuno(愛知医科大学)、Akiyoshi Takami(愛知医科大学)、Koji Kawamura(鳥取大学医学部附属病院)、Kaito Harada(東海大学)、Masuko Masayoshi(新潟大学歯学総合病院)、Shingo Yano(東京慈恵会医科大学)、Ayumu Ito(国立がん研究センター中央病院)、Yukiyasu Ozawa(名古屋第一病院)、Fumihiko Ouchi(東京都立駒込病院)、Takashi Ashida(近畿大学病院)、Yuichiro Nawa、Tatsuo Ichinohe(広島大学)、Takahiro Fukuda(国立がん研究センター中央病院)、Yoshiko Atsuta(日本造血細胞移植データセンター)、Masamitsu Yanada(名古屋市立大学医学部附属東部医療センター)。Allogeneic hematopoietic cell transplantation for acute myeloid leukemia with BCR::ABL1 fusion. *EJHaem* 5(2). 369-378 (2024.3.30)
7. Ryu Yanagisawa(信州大学医学部附属病院)、Michiho Shindo(東京女子医科大学)、Akihiro Shinohara(東京女子医科大学)、Yachiyo Kuwatsuka(名古屋大学医学部附属病院)、Koichi Nakase、Fumihiko Kimura(防衛医科大学校病院)、Naoki Shingai(東京都立駒込病院)、Tetsuya Nishida(名古屋第一病院)、Takahiro Fukuda(国立がん研究センター中央病院)、Masatoshi Sakurai(慶應義塾大学医学部)、Mineo Kurokawa(東京大学医学部附属病院)、Takashi Koike(東海大学)、Shuichi Ota(札幌北楡病院)、Satoru Takada(済生会前橋病院)、Makoto Onizuka(東海大学)、Naoyuki Uchida(虎の門病院)、Masatsugu Tanaka(神奈川県立がんセンター)、Maiko Noguchi(九州がんセンター)、Yumiko Maruyama(筑波大学附属病院)、Maki Hagihara(横浜市立大学附属病院)、Tatsuo Ichinohe(広島大学)、Yoshiko Atsuta(日本造血細胞移植データセンター)、Junya Kanda(京都大学大学院医学研究科)、Hideki Nakasone(自治医科大学附属さいたま医療センター)、Tomomi Toubai(山形大学医学部附属病院)。Comparative Analysis of Allogeneic Bone Marrow Transplantation Outcomes Between Japanese and Non-Japanese Populations. *Transplantation Proceedings* 56(2). 416-421 (2024.3)
8. 土居優希、森正和、肥山隆一郎、後藤有基、上田怜、橋田里妙、板橋今日子、佐伯恭昌、中瀬浩一、名和由一郎。Plerixafor era における末梢血幹細胞採取時の造血前駆細胞数測定の有用性。愛媛県立病院学会々誌 58. 47-51 (2024.3)
9. Matsudate Y、Saeki K. A patient with acute-type adult T-cell leukemia/lymphoma that rapidly progressed after Helicobacter pylori eradication therapy. *Dermatol Online J* 30(2). 21 (2024.4.15)
10. Kyosuke Saeki、Fujiwara H(岡山大学病院)、Seike K(岡山大学病院)、Kuroi T(岡山大学)、Nishimori H(岡山大学病院)、Tanaka T(岡山大学)、Matsuoka KI(岡山大学)、Fujii N(岡山大学病院)、Maeda Y(岡山大学)。Sigle Agent of Posttransplant Cyclophosphamide Without Calcineurin Inhibitor Controls Severity of Experimental Chronic GVHD. *Acta Med Okayama* 78(2). 123-134 (2024.4)
11. 森正和、後藤有基、肥山隆一郎、上田怜、橋田里妙、板橋今日子、佐伯恭昌、中瀬浩一、名和由一郎。臍帯血移植後早期再発に対し lenalidomide で長期寛解を得た成人 T 細胞白血病リンパ腫。臨床血液 65(7). 628-632 (2024.7)